

腸腰筋の役割を知ることが 健康寿命延伸の鍵になる

びわこリハビリテーション専門職大学 准教授 | 治郎丸 卓三

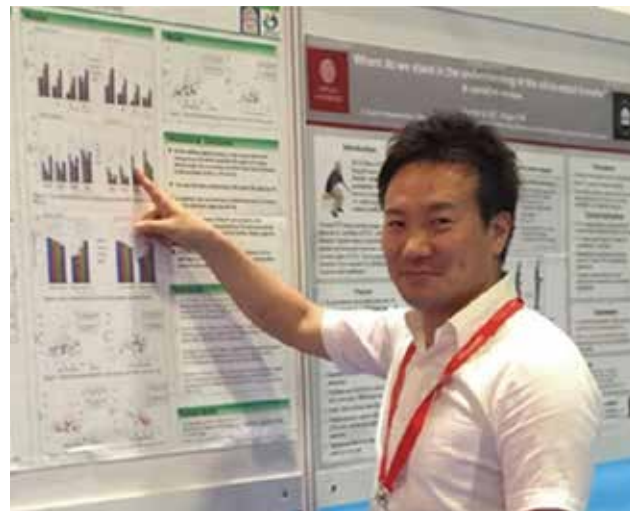


let's access



この QR コードを読み取ると
博士学位論文に
アクセスできます

学位授与の年月	2016 年 3 月
学位論文のタイトル	腸腰筋を含めた股関節屈曲筋群の 機能的役割の再考
指導教員名	伊坂 忠夫
研究領域	バイオメカニクス、動作解析
キーワード	腸腰筋・股関節屈曲筋群・筋活動・ 歩幅・歩行速度



学位取得を 目指した きっかけ

理 学療法士として働いていた私は、臨床現場において理学療法を行うなかで、腸腰筋という筋肉の重要性を痛感していた。腸腰筋は、腰椎や股関節を安定させて運動器疾患を予防する役割や、歩く速度、走る速度を速める役割などを有する一方で、加齢による筋萎縮が著しい筋肉であることが知られていた。しかしながら、腸腰筋は身体の深層に位置するため、動作中における腸腰筋の働きを捉えることは容易ではなく、腸腰筋の働きについては不明な点が残されていた。そこで、動作中の運動学的・運動力学的解析に精通している伊坂忠夫教授の指導を受け、腸腰筋の役割を再考し、腸腰筋のスペシャリストとなることを目標とし学位取得を目指した。

在学中

教 育と臨床の現場で理学療法士として働きながらではあったが、伊坂忠夫教授をはじめ、多くの教員の方々のご支援ご鞭撻により、働きながら研究活動に取り組むことができた。スポーツ健康科学における研究活動により、医療分野での考え方だけではなく、様々な分野にも視野が向けられるようになり、それまででは思いつかなかった発想ができるようになり、仕事において素晴らしい影響を及ぼした。また、本研究科に在学するまでに、国内における学会発表を行ったり、国内学術雑誌に掲載される経験はしていたが、英語が苦手だったため国外で学会発表を行うことや海外学術雑誌に投稿することは当時は到底考えられなかった。しかし、本研究科に在学したことがきっかけとなって世界に目を向けられるようになり、その結果、海外での学会発表を数回行うとともに、Journal of electromyography and kinesiology, SpringerPlus という国際学術雑誌にも掲載された。

現在

博 士学位を取得後、引き続き理学療法士として、2020 年 3 月まで滋賀医療技術専門学校の専任教員、2020 年 4 月からはびわこリハビリテーション専門職大学の准教授に着任し、腸腰筋に関わる研究活動も継続しながら、医療現場だけでなくスポーツ現場でも理学療法を行う機会を数多く得ることができている。スポーツ現場では、中学、高校、大学、実業団の陸上競技選手を中心に関わることができおり、本研究科で得た知見とその後の研究で得た知見、そして、臨床で得た経験を統合し、腸腰筋を意識したトレーニングやランニングフォーム指導などを行うことで、競技成績や怪我の予防に一定の効果があると確信している。

将来像

専 門職大学において教育・研究活動とともに、実践的かつ応用的な能力を磨き続け、我が国民だけにとどまらず、世界の多くの人たちの健康寿命延伸やスポーツパフォーマンス向上に貢献できる理学療法士になることを目指している。その実現のために、教育、研究、臨床、すべての場において、目の前の一人一人としっかりと向き合い、その経験すべてを活かしていける人物となる。

社会はあなたを待っています。生きる力を磨いてください！